

# 長野県立大学大学院 ソーシャル・イノベーション研究科



## 三輪キャンパス

JR 長野駅善光寺口乗り換え長野電鉄(乗車時間 6 分)「本郷」駅下車(徒歩 10 分)  
JR 長野駅善光寺口 6 番バスのりば長電バス(乗車時間 15 ~ 20 分)「城山団地」下車(徒歩 5 分)

## GUIDE BOOK 2027

地域を動かし、  
未来を創る。





## TOP MESSAGE 理事長・学長メッセージ



公立大学法人長野県立大学 理事長  
佐藤 慎次郎

### 20世紀的アプローチを超える 地域とつながる学びが未来を動かす

21世紀の社会はグローバル化、情報化、少子高齢化等を受けて著しく複雑化しており、20世紀的な学術アプローチでは手に負えない課題が山積しています。ソーシャル・イノベーションとはそうした社会課題をイノベーションの力を活用して解決しようとする試みです。

ソーシャル・イノベーション研究科では、経営的視点から社会課題解決に取り組む人材の育成を目指しています。少人数ならではの濃密なコミュニケーション、既存の学問分野にとらわれない自由な気風、そして幅広い人材を受け入れる多様性は本研究科の魅力です。自然豊かで地域とのつながりも深い環境で仲間とともに学びたいという皆さんの挑戦をお待ちしています。

#### <プロフィール>

テルモ株式会社において、経営企画室長、心臓血管カンパニープレジデントを歴任。代表取締役社長CEO就任後は成長事業の業績拡大をけん引するとともにグループ経営の強化に努め、同社のグローバル展開を加速させた。  
テルモ株式会社 前代表取締役社長CEO/日本電気株式会社 社外取締役。

### 地域社会を動かすアイデアを創る 知識と技術を修得してほしい

長野県立大学は、持続可能な豊かな社会の実現に向けて、地域社会の発展に資する研究を蓄積・発信するとともに、その中核となる人材を輩出することを1つの基本理念として、研究・教育の両面での活動を続けてきました。

ソーシャル・イノベーション研究科は、そうした本学の基本理念に基づき、「社会科学の知見に基礎を置いたビジネススキル」を修得し、さまざまな社会課題の解決を主体的に実践できる人材の育成を目指します。経営・会計・マーケティング・財務といった企業経営に関する知識に加えて、行政組織や地方自治制度などの公共経営についても学び、幅広い視点から経営について考える経験を提供することは本研究科の特色といえます。さらに、既存の知識から新たなアイデアを創出するためのスキルの習得に向けた教育支援も積極的に行われています。学部での基礎的な学びをより専門的な学びへと深化させたい、ビジネスキャリアのいっそうの強化を目指す、公共政策・制度の設計に向けて専門性を高めたい、より良い社会の実現に向けて行動を起こしたい——。本研究科は、このような多様な思いをキャリアにつなげます。皆さんの積極的な挑戦をお待ちしています。

#### <プロフィール>

一橋大学で商学部助教授、教授を経て商学研究科長、教育研究開発センター長、学長補佐(教育改革)、副学長を歴任。ミシガン大学客員研究員を務め、公立大学法人長野県立大学理事を経て、2026年4月より現職。専門は金融システム論・行動ファイナンス。



長野県立大学 学長 三隅 隆司

## ソーシャル・イノベーション研究科 4つの 特徴

1 地域を動かし、未来を創るMBA課程

2 正解のない問題を突破する力を養う思考科目

3 実務家教員と少人数で鍛える実践力

4 多様な仲間と応援し合う院生コミュニティ

## INDEX

理事長・学長メッセージ	01
ソーシャル・イノベーション研究科4つの特徴	02
修生インタビュー	11
研究科概要	13

# 地域を動かし、未来を創るMBA課程

## MESSAGE 研究科長メッセージ



ソーシャル・イノベーション研究科長  
教授 大室 悦賀

### 持続可能な社会の構築に貢献する ソーシャルイノベーターの育成

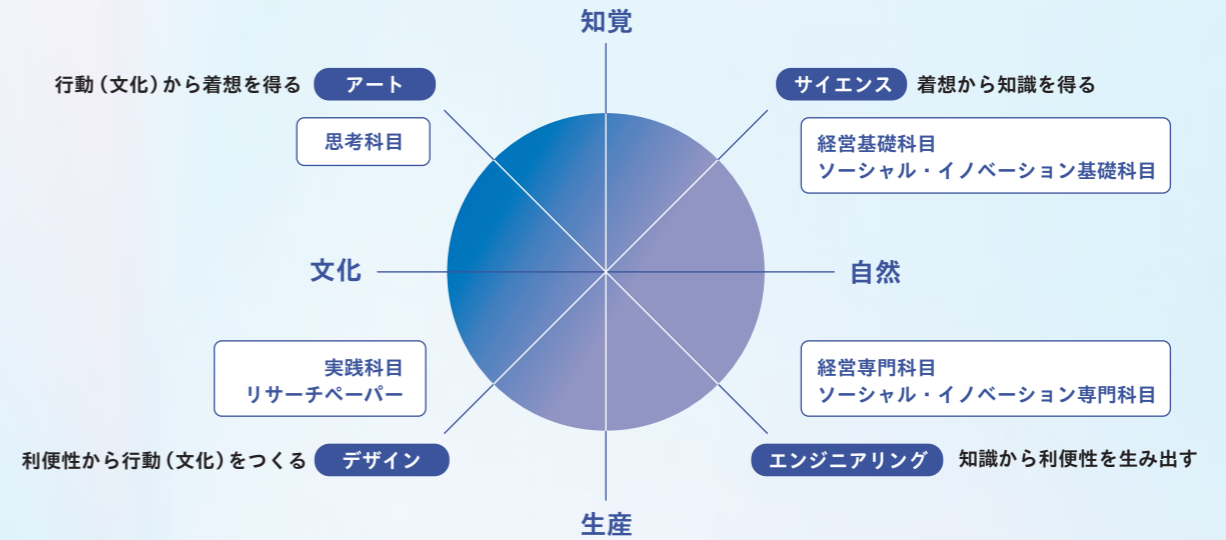
長野県立大学は、持続可能な社会の構築に貢献する人材の育成を目的とした専門職大学院(MBA課程)を設置しました。ソーシャル・イノベーション研究科は、通常のMBAプログラムに、①持続可能な社会への貢献と、その視点から②イノベーション創発の2点を追加しています。具体的には、イノベーション創発モデルの1つであるMITのNeri Oxmanの提唱した「クレブスサイクルモデル」(p4上参照)をベースに、サステナビリティや身体性思考などを考慮したイノベーションを創発する学修カリキュラムを構成しています。さらに、地域におけるイノベーションにおいては、民間、行政、市民が参加する「共創」がイノベーションの絶対条件となるため、公共経営やコミュニティについても学ぶ授業、あるいはそれらをベースに活動する人々も参加するMBAプログラムとなっています。

合理性や効率性、誰にでもわかりやすく、結果がすべて、といった常套句から離れ、持続可能な社会を探るため、批判的にビジネスを捉え、真にこれから求められるビジネスモデルやイノベーション、そして地域のあり方を一緒に考えてみませんか。

#### <プロフィール>

専門分野はソーシャル・イノベーション。現在はイノベーションアイデアの創発を数学や哲学などをもとに研究し、それを可能にする思考方法などを教授している。著書には『サステイナブル・カンパニー入門』学芸出版社、『ソーシャル・ビジネス・ケース』中央経済社、『ソーシャル・イノベーション』NTT出版などがある。

## クレブスサイクルモデル

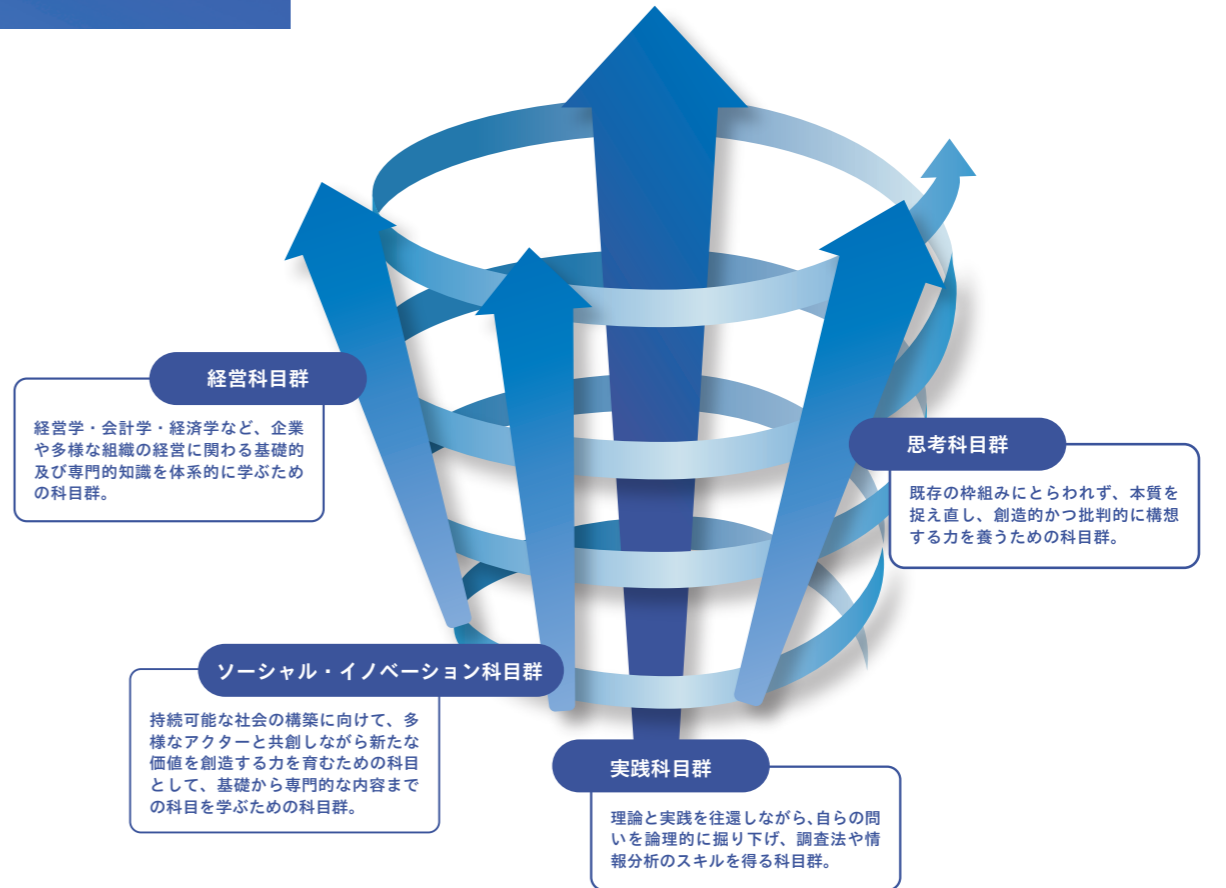


### ソーシャル・イノベーション研究科 カリキュラム概念図

4つの科目群からなる  
特徴的なカリキュラム

#### リサーチペーパー

修得した専門知識や理論的知見と思考力を使って、自らの設定した課題に対して、理論的根拠に基づいた実践的な解決策の提示。



# 正解のない問題を突破する力を養う思考 科目

## 思考科目とは

ソーシャル・イノベーション研究科では、経営やイノベーションに関する科目に加え、本学独自の「思考科目」を設けています。

ビジネスの現場や地域社会では、過去の成功例や既存のフレームワークだけでは対応できない、複雑で前例のない課題が増えています。いま、求められているのは、正解を導く力だけでなく、自ら問いを立て、粘り強く考え抜く力です。

本研究科では、「哲学」をはじめとする多様な思考法を通じて、複雑な課題を多角的に捉え、本質を見抜く力を養います。また、自身の価値観や問題意識を見つめ直すことで、軸をもって意思決定する力を育みます。

培われるのは、変化の時代においても新たな解を構想し続ける、創造的な思考力です。

### 哲学思考



准教授 神戸 和佳子

**<プロフィール>**  
研究者/「哲学対話」実践者。専門は哲学・教育学。自らの問いを起点に多様な他者とともに考える対話の実践と研究に取り組む。学校教育、企業・組織、地域社会、芸術分野など幅広い領域で哲学対話を実践。TVドラマや演劇作品の倫理監修など、社会的に複雑な価値判断が求められる表現の現場にも関わる(NHK「虎に翼」ほか)。共著に『子どもの哲学』シリーズ(毎日新聞出版)など。



### アート思考



客員准教授 若宮 和男

イノベーションのための思考法として現在注目されている「アート思考」について、基礎的な知識を得るとともに、座学のみではなくワークショップを通じて学生が実践的にアート思考を体験します。「アート思考」とはアートについての知識や教養を身につけることではありません。価値観の革新と多様性の素地を培うアート思考を学ぶことで、拡大志向の資本主義から持続可能な社会への価値転換の契機としていきます。

**<プロフィール>**  
起業家/アート思考キュレーター。建築士、アート研究者を経てドコモ、DeNAにて複数の新規事業を立ち上げ、2017年uni'que創業、2018「すごいベンチャー100」選出。2023年4月メタバースクリエイターズ創業。新規事業、アート思考、ダイバーシティ、コミュニティ関連でメディア掲載、講演多数。著書に『ハウ・トゥー・アート・シンキング』。

### セルフマネジメント



客員准教授 稲垣 聡一郎

ソーシャル・イノベーションを実現し、それを持続可能な状態にするためには、「自分の外側にある人や環境を変える」アプローチだけでなく、「自分自身の内面や思考のクセ、感情・行動・結果の構造」を理解し、まず自分自身がサステナブルになる必要があります。セルフマネジメントでは、自分自身の内面や軸に向き合いながら、今までは違う選択肢を生み出し、新たな行動・結果を生み出していくための土台を理解し、自分自身をマネジメントすることがどのように組織や社会につながるかの構造を理解していきます。

**<プロフィール>**  
大手IT企業、ベンチャー企業役員を経て、2011年に起業。2015~17年アメリカ西海岸のドラッカー・スクールに留学。帰国後に、同大学院の教授でありセルフマネジメント理論実践の第一人者、ジェレミー・ハンター博士とともに、セルフマネジメントやトランジション理論をベースにしたコンサルティング会社Transformを設立。

### システム思考



客員准教授 福谷 彰鴻

私たちが直面する複雑な課題を解決するために必須の力として、OECDのEducation 2030プロジェクトにも紹介されているシステム思考。現代社会の環境や社会の持続可能性の課題は、物事をただ要素還元するだけでは解決できないばかりでなく、意図せぬ結果を生むことがあります。こうした複雑な課題に効果的にアプローチするため、要素のつながりに着目して「木を見て森も見る」思考習慣を育みます。

**<プロフィール>**  
システム思考教育家。『学習する組織』の著者ピーター・センゲから長年にわたり教える直弟子。企業・NPOのリーダーシップ研修、教育機関でのワークショップ、子ども向け講座などを通じて、システム思考をはじめ一見複雑なコンセプトやツールを、幅広い世代に普段使いの言葉で届ける。妻と息子1人と鎌倉在住。

### 身体性思考



客員准教授 藤本 靖

先行きの見えない不確実な世界を生き抜くためには、持続可能性を持つ未来を構想する創造力、人や社会とつながる共感力が必要となります。「外の世界にある情報に出会い、それを感覚として受け止めて表現する」われわれが日常当たり前に行っているこのプロセスを「身体」をベースに考察することが「身体性思考」です。創造力や共感力の源泉となる「身体性」について、理論(神経生理学)と実践(ボディワーク)を交えて行われる授業です。

**<プロフィール>**  
環境神経学研究所代表。東京大学大学院身体教育学研究科修了。「神経系の自己調整力」について研究。ボディワークの専門家として「快適で自由な心と身体になるためのメソッド」を開発。現在は、ボディワーカーとしての活動に加えて、自律神経研究に注力し、ヘルスツーリズム、ワーケーション、商品開発などの社会実装に取り組む。

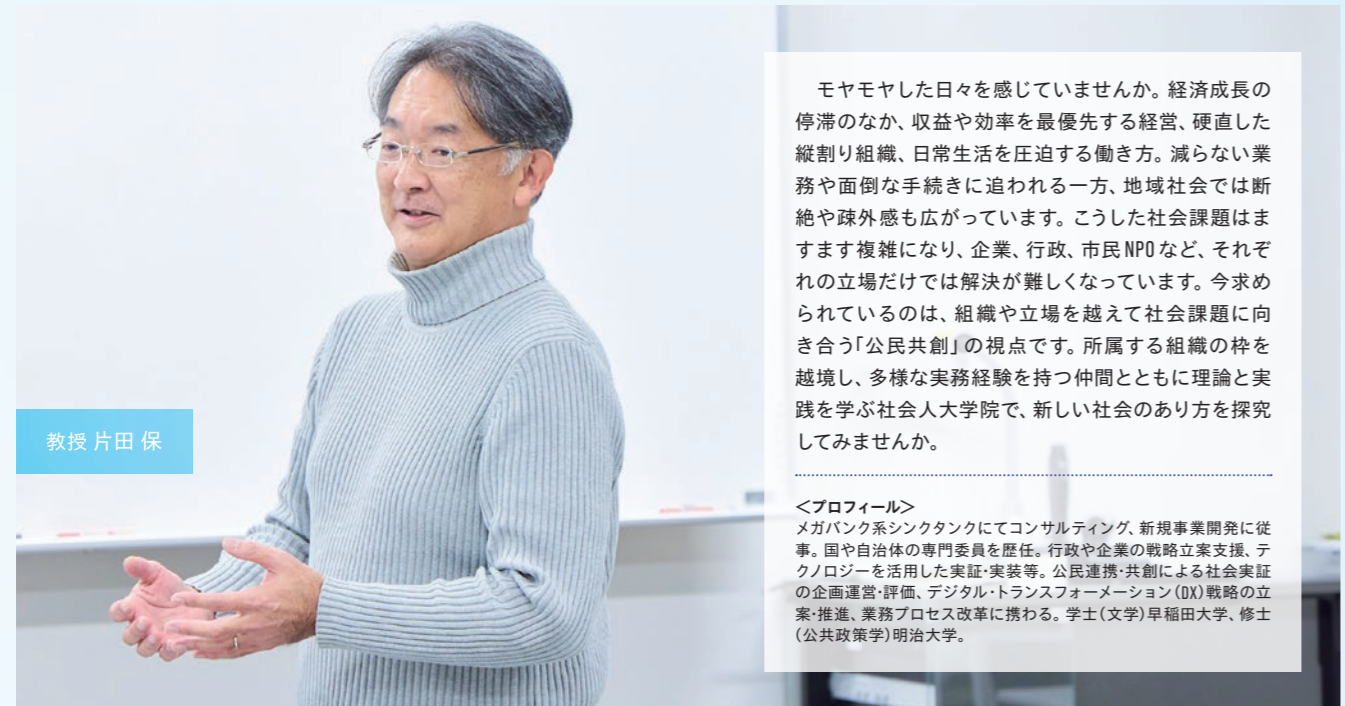
# 実務家教員と少人数で鍛える実践力

リサーチペーパーとは、ソーシャル・イノベーション研究科で修得した専門知識や理論的知見と思考力を用いて、自らの設定した課題に対して、理論的根拠に基づいた実践的な解決策を提示するものです。解決策の導出には、関連データや資料、参考文献(学術論文ほか)のレビュー、他事例の検討、フィールドワークなどといった研究調査が求められます。実践可能性に主眼が置かれた実務研究の側面が強いですが、適切な研究調査方法の採択、理論に依拠した論理展開、研究内容と結論に説得力が求められる、という点は、学術的な修士論文と変わりありません。

リサーチペーパーには、「今後自身がソーシャルイノベーターとして実現していく具体的な構想を描くこと」が求められます。また、地域に根ざした事業や政策を、創造的に自らも主体者として、構想しているものであることも必要とされます。

本研究科では3名のリサーチペーパー担当教員が指導を行っています(うち1名は2027年4月着任予定)。

## リサーチペーパー担当教員紹介



教授 片田 保

モヤモヤした日々を感じていませんか。経済成長の停滞のなか、収益や効率を最優先する経営、硬直した縦割り組織、日常生活を圧迫する働き方。減らない業務や面倒な手続きに追われる一方、地域社会では断絶や疎外感も広がっています。こうした社会課題はますます複雑になり、企業、行政、市民NPOなど、それぞれの立場だけでは解決が難しくなっています。今求められているのは、組織や立場を越えて社会課題に向き合う「公民共創」の視点です。所属する組織の枠を越境し、多様な実務経験を持つ仲間とともに理論と実践を学ぶ社会人大学院で、新しい社会のあり方を探究してみませんか。

<プロフィール>  
メガバンク系シンクタンクにてコンサルティング、新規事業開発に従事。国や自治体の専門委員を歴任。行政や企業の戦略立案支援、テクノロジーを活用した実証・実装等、公民連携・共創による社会実証の企画運営・評価、デジタル・トランスフォーメーション(DX)戦略の立案・推進、業務プロセス改革に携わる。学士(文学)早稲田大学、修士(公共政策学)明治大学。

自分の内面に向き合うことは、ソーシャル・イノベーションを生み出す起点となります。自分に向き合うプロセスは、時に苦しさを伴いますが、大学院での多くの出会いや学びを通じて、仲間と切磋琢磨しながら、時にじっくり立ち止まりながら過ごす時間は、大切な人生のトランジション(変革)の土台となっていきます。この土台は、大学院修了後にソーシャルイノベーターとして歩んでいく際に、とても大切な存在になっていくはず。異なる力を持つ仲間たちと出会い、ともに学び、自分と社会に挑戦するのが、本研究科です。自分と社会を変革し、より良い社会を創るソーシャル・イノベーションを生み出していくリーダーたちをお待ちしています。

<プロフィール>  
外資系コンサルティング会社を経て独立。起業家として被災地での事業開発に取り組む。その他、アジア女性社会起業家ネットワーク構築や国内外での女性起業支援プロジェクト等を牽引。アジア・アフリカ・中東で多数のSDGsビジネス支援・官民連携プロジェクトに貢献。複数の社会起業・非営利組織などの経営にも携わる。学士(社会学)国際基督教大学、修士(国際貢献)東京大学。



准教授 渡邊 さやか

## リサーチペーパータイトル一覧

### 2024年3月修了生

- ソーシャルイノベーション創出につながる企業の社会貢献活動のためのフレームワーク構築  
—リコーの社会貢献活動の事例を通じて—
- アスレティックトレーナーの社会的地位向上に関する研究  
—新たな価値創造による活動領域の拡大をつうじて—
- 大学生のマイプロジェクトを支える教育エコシステム構築における課題分析と提案  
—長野県内のマイプロジェクトに取り組む大学生を対象としたインタビューからの分析—
- 善光寺門前町(旧善光寺町)における地域と老舗の課題と未来  
—フィールドワークによる課題整理と観光まちづくりの可能性—
- 地方自治体のパラダイムシフトと組織変革の実現に関する考察
- 出産・育児により離職した女性のリスクリテラシーに関する研究からの事業提案
- 看護師の離職予防のための看護管理者に求められるマネジメント  
—職員満足度調査からの考察—
- 組織における個人の関係性のなかでクリエイティビティを發揮させる対話を用いた方法論の提案
- 地域工務店におけるファミリービジネス事業継承プロセスの研究  
—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を用いた質的分析から—
- 地方自治体における感情を基にした政策の必要性  
—レスポンスビリティ確保の視点から—
- シビック・イノベーション拠点スナバが生み出すインパクトの最大化に向けての考察  
—中間支援組織の視点から分析する地域イノベーション創出の成功要因と今後の可能性—
- 組織内の恩送り資金の仕組みが経営活動に与える可能性  
—ポーランド・ジャパンの事例から—
- 母親のウェルビーイング向上のための大学生向けSRHR教育プログラムの開発  
—母親へのライフストーリー・インタビューの分析結果をふまえて—
- 地域の生活に寄り添うクルマの在り方への問題提起と提案  
—生活者へのライフストーリー・インタビューを通じて—

### 2025年3月修了生

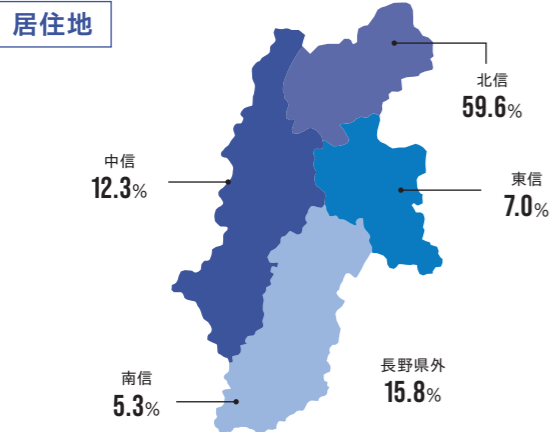
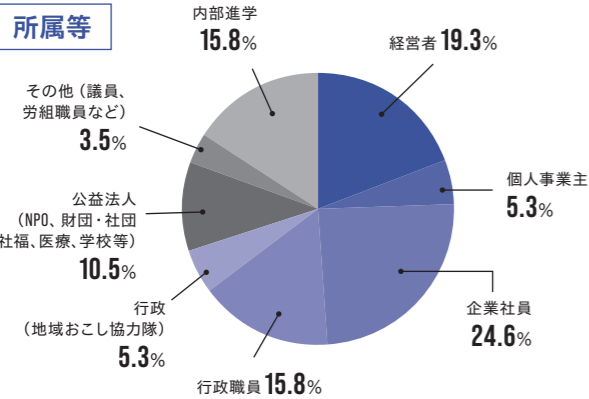
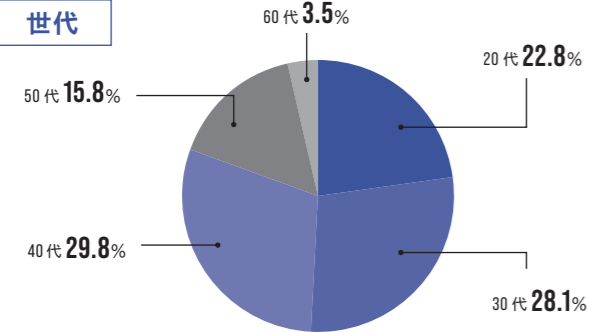
- 定年前後におけるキャリアの影響要因分析と越境学習の有効性に基づく取り組み提案  
—地域金融機関(管理職出身者)を対象としたインタビューより—
- 地方自治体における「ワクワク感」の必要性と創出要素  
—安曇野市職員の実感と期待を踏まえた考察から—
- 地域イノベーションエコシステムのプロジェクト創発を含む駆動プロセスについての考察
- 日本人と森林の心理的距離の探求  
—哲学対話を通じた気づきと心理的变化の分析—
- 炭素会計の視点から考える実行性のある脱炭素施策の提案  
—地域金融機関の立場から—
- 信州の食品産業クラスター「発酵バレー NAGANO」によるブランド価値創出戦略  
—「民藝」および「学び」の地域特性を活かした施策提案—
- 社会に出るための力を身につける通信制高校の仕組み、その実践からの提案  
—内発的動機づけを手がかりに—
- 障がい者の可能性を地域に力に  
—PERMAモデルを活かした就労支援のすがた—
- 高齢女性およびその関係者のウェルビーイングを高めるメイクサービス実現に向けての検討  
—メイクサービスと介護福祉士の実践的専門性を活かした実証と分析から—
- 男性育休を“自己成長と少子化対策”につなげるには  
—ソーシャルスキルの変化をトランジションの視点から—
- 地方自治体における若手職員の離職抑制施策の提案  
—上司と部下によるコミュニケーションと自己効力感に着目して—

### 2026年3月修了生

- 弱いつながりを基盤とした地域参加のあり方  
—料理を媒介とした共同活動と「静かな市民性」の検討—
- 「ゆるい対話の場」は、いかにして協働を生成するか  
—公立文化施設の参加型自主事業を通じた文化的エコシステムの形成過程の分析—
- 親自身が「親のあり方」を考える親教育プログラムの社会実装についての提案  
—CFIRによる実施者に注目した実装方法の分析から—
- 地方銀行がインパクト経営を実現するための実効的なフレームワークの検討と提案  
—経済的価値と社会的価値の創造に向けて—
- 継続的にイノベーションを創発していく組織づくりの検討と考察  
—直富商事の今後の組織文化とリーダーシップのあり方について—
- ナラティブ・ガイドによる語りと文化の再構築  
—中山道(木曾路)における語りの実践を事例として—

# 多様な仲間と応援し合う院生コミュニティ

## 学生データ



本データは、2022年4月入学1期生から2026年4月入学5期生の入学時点での情報をもとに作成しています。

### 応援し合える多様な仲間との出会い

ソーシャル・イノベーション研究科には、年齢・所属組織・居住地、そしてバックグラウンドが多様な学生が集まります。世代も多様で、創業や新規事業を検討したいと考えている人、人生やキャリアの転換として学びを得たい人、退職後を見越した人生の次の目標を具体化したい人、学部からの進学生などさまざまです。多くの学生は長野県内在住者ですが、県外在住者も入学しています。地域に根ざしたソーシャルイノベーターとしての実践的な学びを得られる本研究科での学びによって、多様な応援し合える仲間との出会いは、本当に重要な要素の一つです。

## 授業形式

### 平日オンライン/土曜日対面



### オンラインと対面を併用した授業形式

社会人学生への学習環境提供のため、月～木曜日の夜間及び土曜日に授業が編成されています。月～木曜日の夜間の授業をZoomによるリアルタイム形式のオンライン授業とすることで、働きながら受講しやすい環境を整備しています。前提となる課題の提示や知識の説明などは事前に資料共有を行うことで、オンラインでの演習がスムーズに行えるほか、教員とのやり取りは、メール等でいつでも受け付けられる環境を整えています。土曜日は、隔週でオンラインと対面での授業が実施され、教員や学生との関係性も構築することができます。

### 学びのスタイル

ある在学生の1週間

朝、子どもを保育園に送ってから仕事に向かい、夕方17時頃に終了します。子どものお迎え、食事、入浴を済ませた後、月曜日と水曜日のオンライン授業に参加。隔週土曜日の対面授業に参加できるのは家族の理解があってこそです。

赤池 侑馬さん

#### <プロフィール>

KEIPE (ケイブ) 株式会社代表取締役。千葉大学卒業後、公立中学校の保健体育・家庭科の教師を経て民間企業に入社。Webマーケティングや営業、新規事業立ち上げなどを経験後、2017年にKEIPEを設立。現在は「課題を可能性に変える」をテーマに、飲食業、地域商社事業、資源循環事業なども展開中。山梨県在住。



### 赤池さんの週間スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土
午前	終日家族と過ごす	早朝自習	勤務 (出張)	勤務 (出張)	勤務	早朝自習	山梨から長野へ移動
		子どもの送迎		子どもの送迎		子どもの送迎	子どもの送迎
午後	終日家族と過ごす	勤務	勤務 (出張)	勤務	勤務	勤務	三輪キャンパスでの授業
		子どもの送迎		子どもの送迎		子どもの送迎	
		オンライン授業		オンライン授業			
		自習		自習		会合	

6限 18:50 ~ 20:30  
7限 20:40 ~ 22:20

6限 18:50 ~ 20:30  
7限 20:40 ~ 22:20

2限 10:40 ~ 12:20  
3限 13:10 ~ 14:50  
4限 15:00 ~ 16:40  
5限 16:50 ~ 18:30

# 修了生インタビュー



2024年3月修了 赤堀 久美子さん

## 学びで得た思考、 仲間との出会いが大きな 財産・元気のリソースです

修了して2年が経ちますが、ソーシャル・イノベーション研究科での学びの恩恵を日々感じています。企業がサステナビリティに本質的に取り組むためには、経営のあらゆる視点に取り込んでいく必要があるため、経営戦略、財務、ガバナンスなど経営科目の授業で得た知識は、関係各所と議論する際の基盤となっています。

思考系の授業で得た視点や体感、課題を考える際の指針としてチーム内で共有したり、自分自身がありたい状態にいるかを考えるきっかけになったり、まさに思考の源泉になっています。また、リサーチペーパーで構築した社会貢献のフレームワークは、社内で活用するだけでなく、学会発表や社外関係者に共有する機会も作り、某企業の方から「社会貢献プログラムの説明に活用させてほしい」という嬉しいお言葉もいただきました。

そして何よりも、社会課題に想いを持って取り組み続けている同期の仲間たち、後輩たち、教員方のいる本研究科コミュニティとのつながりが、大きな財産・元気のリソースとなっています。

### <プロフィール>

株式会社リコー ESG 戦略部。大学卒業後リコーでの勤務を経て、2003年 NPO 法人ジェンに転職。イラクの復興支援等を担当。2008年、再度リコーに入社し、以来、サステナビリティ部門にて、事業を通じた社会課題解決の取り組み、サステナビリティの経営統合等を推進。2023年より国際協力 NGO センター (JANIC) 理事。



2025年3月修了 中嶋 信之さん

## 「もう1人の私の視点」から 見つめ直す、多面的な思考力が 身につきました

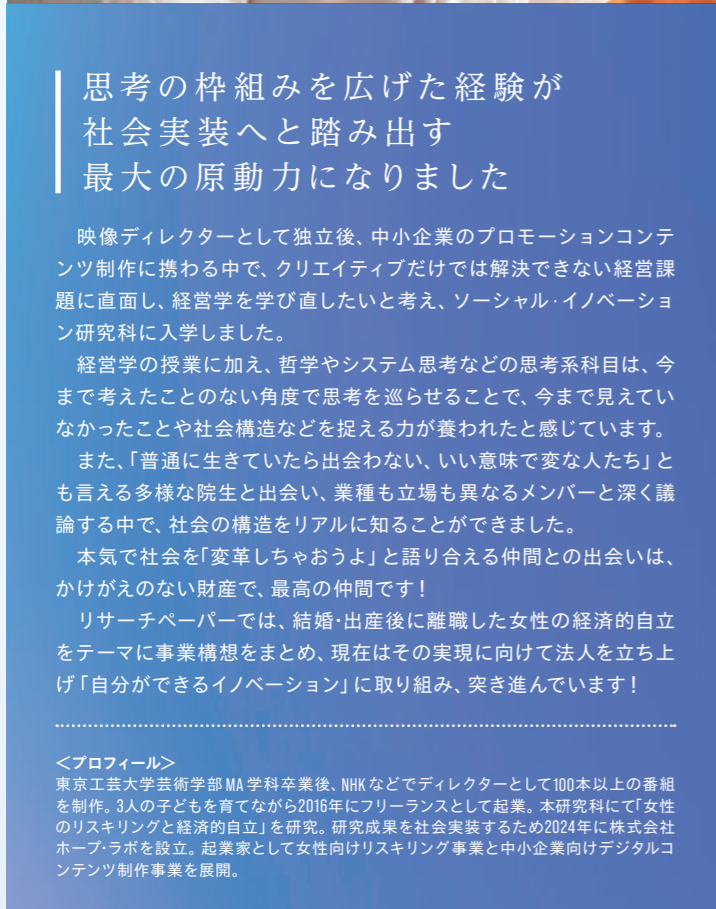
ソーシャル・イノベーション研究科での学びは、私にとって自分自身と向き合う時間でもありました。特に在学中のカリキュラムでは、「私自身を知る・理解する」という課題と向き合うことに大きな悩みを感じた時期もありましたが、今ではその過程こそが私を成長させてくれたターニングポイントであったと実感しています。

狭い思考から抜け出し、もう一人の私の視点から物事を見つめ直すことで、多面的に考える力が身についたと感じています。こうした思考の広がりに加え、戦略やビジネスモデルなど多様な理論やフレームワークを学んだ経験は、修了後の企画・立案や政策運営において大きな支えとなっています。

また、本研究科で出会った学友や教員方とのつながりも大きな財産です。それぞれの立場で挑戦を続ける仲間への存在は、修了後の今も私に新たな気付きと刺激を与えてくれています。本研究科で得た学びや人とのつながりは、現在の仕事や私自身の将来への挑戦を支えるうえで大切な基盤となっています。

### <プロフィール>

都市計画系コンサルタント勤務を経て、地元安曇野にリターン。安曇野市役所勤務。都市計画や公共交通政策を担当。今後は地方創生に関わる業務や地域をフィールドとした活動の展開を勝手に画策中。プライベートでは、2人の娘の子育てのかたわら、趣味のガーデニング(主に草取り)と家庭菜園を楽しむ。



2024年3月修了 中山 望さん

## 思考の枠組みを広げた経験が 社会実装へと踏み出す 最大の原動力になりました

映像ディレクターとして独立後、中小企業のプロモーションコンテンツ制作に携わる中で、クリエイティブだけでは解決できない経営課題に直面し、経営学を学び直したいと考え、ソーシャル・イノベーション研究科に入学しました。

経営学の授業に加え、哲学やシステム思考などの思考系科目は、今まで考えたことのない角度で思考を巡らせることで、今まで見えていなかったことや社会構造などを捉える力が養われたと感じています。

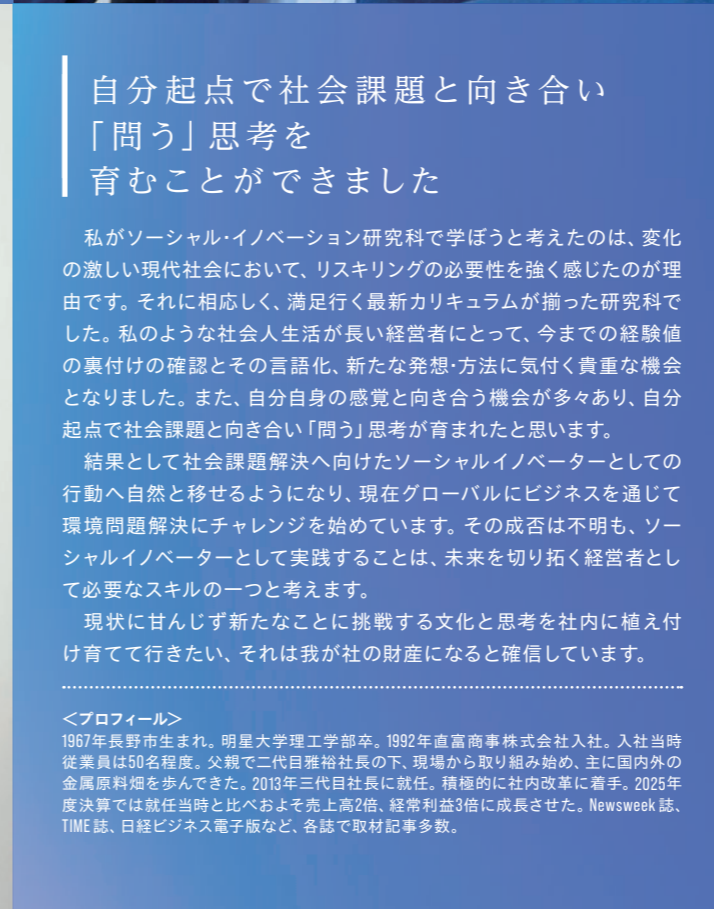
また、「普通に生きていたら出会わない、いい意味で変な人たち」とも言える多様な院生と出会い、業種も立場も異なるメンバーと深く議論する中で、社会の構造をリアルに知ることができました。

本気で社会を「変革しちゃおうよ」と語り合える仲間との出会いは、かけがえのない財産で、最高の仲間です!

リサーチペーパーでは、結婚・出産後に離職した女性の経済的自立をテーマに事業構想をまとめ、現在はその実現に向けて法人を立ち上げ「自分ができるイノベーション」に取り組み、突き進んでいます!

### <プロフィール>

東京工芸大学芸術学部 MA 学科卒業後、NHK などでディレクターとして100本以上の番組を制作。3人の子どもを育てながら2016年にフリーランスとして起業。本研究科にて「女性のリスクリングと経済的自立」を研究。研究成果を社会実装するため2024年に株式会社ホープラボを設立。起業家として女性向けリスクリング事業と中小企業向けデジタルコンテンツ制作事業を展開。



2026年3月修了 木下 繁夫さん

## 自分起点で社会課題と向き合い 「問う」思考を 育むことができました

私がソーシャル・イノベーション研究科で学ぼうと考えたのは、変化の激しい現代社会において、リスクリングの必要性を強く感じたのが理由です。それに相応しく、満足行く最新カリキュラムが揃った研究科でした。私のような社会人生活が長い経営者にとって、今までの経験値の裏付けの確認とその言語化、新たな発想・方法に気付く貴重な機会となりました。また、自分自身の感覚と向き合う機会が多々あり、自分起点で社会課題と向き合い「問う」思考が育まれたと思います。

結果として社会課題解決へ向けたソーシャルイノベーターとしての行動へ自然と移せるようになり、現在グローバルにビジネスを通じて環境問題解決にチャレンジを始めています。その成否は不明も、ソーシャルイノベーターとして実践することは、未来を切り拓く経営者として必要なスキルの一つと考えます。

現状に甘んじず新たなことに挑戦する文化と思考を社内に植え付けて育てていきたい、それは我が社の財産になると確信しています。

### <プロフィール>

1967年長野市生まれ。明星大学理工学部卒。1992年直富商事株式会社入社。入社当時従業員は50名程度。父親で二代目雅裕社長の下、現場から取り組み始め、主に国内外の金属原料畑を歩んできた。2013年三代目社長に就任。積極的に社内改革に着手。2025年度決算では就任当時と比べおよそ売上高2倍、経常利益3倍に成長させた。Newsweek 誌、TIME 誌、日経ビジネス電子版など、各誌で取材記事多数。

# 研究科概要

## 入学から修了までのスケジュール

1年次の前半は、「思考科目」で多様な思考法を習得するとともに、経営やソーシャル・イノベーションにかかわる基礎的な科目を履修し、土台を固めます。1年次後半から、専門的・応用的な科目、そして「実践科目」に取り組むことで、学びを自らのものにつつ、問いと思考を深めていきます。

1年次の冬には、リサーチペーパー担当教員を決め、自身の取り組むテーマを明確にします。その後、2度の中間発表「ブラッシュアップセッション」や、2年次から始まる少人数制の演習（ゼミナール）を通じて、リサーチペーパー執筆の方向性を具体化し、自身の事業計画について、理論と実践を行き来しながら磨き上げていきます。

2年次の1月に、完成したリサーチペーパーを提出。その後、口頭試問、公開での発表会を経て、修了（学位授与）となります。



## 概要データ・学費・入試

研究科名 ソーシャル・イノベーション研究科 (専門職大学院)	専攻 ソーシャル・イノベーション専攻	課程 専門職学位課程 (MBA課程)	学位の種類 経営学修士 (専門職)	修業年限 <b>2年</b>	修了要件 単位数 <b>40単位</b>	入学定員 <b>10人</b>
--------------------------------------	-----------------------	--------------------------	-------------------------	-------------------	----------------------------	--------------------

学費	
入学料	授業料(年額)
<b>282,000円</b>	<b>535,800円</b>

※その他、保険料、教科書代、フィールドワークや研究上必要なインタビュー等にかかる移動等の経費は別途かかります。  
※授業料の金額について、在学中に改定された場合は新授業料が適用されます。

選抜方式	一般選抜方式	推薦選抜方式	学部新卒選抜方式
対象	大学等を卒業し、1年以上の職歴を有する者	1年以上の職歴を有し、現所属長から推薦を得られる者	4年制大学卒業見込で、 ①6ヶ月以上の起業等経験または、 ②事業承継予定者
入試日	夏季入試 2026年8月23日(日) 冬季入試 2027年2月7日(日)		夏季入試 2026年8月23日(日) ※冬季入試は実施しません
事前相談	必須ではないが推奨	必須	必須

※入試の詳細は2027年度学生募集要項をご確認ください。

## Q&A

### Q1 出願の際に提出する「事業計画」はどのような内容・レベルを求めているのか？

ソーシャル・イノベーション研究科は実務家育成のための専門職大学院であり、研究者を養成する大学院ではありません。そのため、2年間を通じて自分が成し得たいことを明確に持って入学していただきたいという趣旨から、入試においては研究計画ではなく、事業計画を提出いただいています。この事業計画は、事業を通じて成し得たいことや想定しているビジネスモデルが描かれていれば良く、詳細な(数値として精緻化された)収支計画を求めるものではありません。

### Q2 経営やイノベーションに関する専門知識はどの程度必要か？

入学前には、専門知識がなくても問題ありません。ただし、授業を始めるにあたっての基礎的な土台は持っていていただく必要があることから、授業前ガイダンス内で、土台となるような経営知識の授業を用意しています。

### Q3 在学中に人事異動で職場の部署が変わる可能性がある。リサーチペーパーのテーマは職場の事業に縛られなくてもいいか？

もちろん、問題ありません。出願時点での事業計画が、入学後に変わることは大いにあり得ることです。そのため、ご自身の今の取り組みや職場での事業ということにとらわれず、本当にご自身が成し得ていきたい事業内容について、まずは入学前に考えていただくこと、入学後もそれを掘り下げて考え、行動していただくことが大切と考えています。

### Q4 学業と仕事や家庭のやり繰りができるか心配。2年間で必ず修了しなくてはならないか？

多くの方が2年間で修了されますが、在学延長や休学などの制度があり、ご自身の都合に合わせて活用することができます。まずは学生サポートセンターまでご相談ください。